

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮西中】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	知識・技能の定着率を上げること、学習計画を立て、家庭学習を習慣化することが課題である。改善策として、スタディサプリやドリルパーク、デジタル教科書等を授業でさらに活用し、効果的な「個別最適な学び」が実現できるようにする。また年間を通して課題配信の回数を増やし、生徒が自主的に学習に取り組む機会を多く設ける。
思考・判断・表現	生徒が自分の意見をまとめ分かりやすく伝える等、積極的に表現する「協働的な学び」の学習活動の設定が課題である。改善策として、授業で身に付けた知識・技能を活用する課題を授業で取り上げる。また、ICTを活用し、自分の考えを他者と共有したり、話しあいながら考えを深めたりする「協働的な学び」の活動をさらに設定する。また、学んだことを振り返り、次の学習につなげさせる場面をつくる。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況に課題がみられる。</p> <p><指導上の課題> 生徒自ら学習計画を立て、家庭学習を習慣化させる指導に課題がある。</p>	⇒ 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」の配信により知識・技能の定着と家庭学習の習慣化を促進させる「課題配信強化月間」を設定する。【年4回、定期テスト前1か月間】。 朝10分間で「スタディサプリ」や「ドリルパーク」に取り組む「学習週間」を設定する。【年4回、定期テスト前1週間】。
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> さいたま市学習状況調査において、市平均正答率を下回っている。</p> <p><指導上の課題> 生徒より主体的・探求的に活動できる学習活動の場が十分でない。</p>	⇒ 各教科、身に付けた知識・技能を活用する場面や課題を授業で設定する【各単元1回以上】。 ICTを活用し、自分の考えを他者と共有したり、話しあいながら考えを深めたりする「協働的な学び」の場面を設定する【各単元1回以上】。

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	A	2月末までに、定期テスト前1か月を目標に「課題配信強化月間」を計4回実施し、国語、社会、数学、理科で課題を配信した。また定期テスト前1週間、朝10分間の「学習週間」を年4回実施した。
思考・判断・表現	B	2学期の「学びの指標」アンケートにおいて、昨年度より「主体的」「探求的」「ICT」は向上、「基礎」はほぼ同等であった。また、今年度前期よりも「ICT」は向上している。これは「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をテーマに全校で研究を進め、ICTの活用により、自分と他者の考えを共有したり比較したりする活動場面を多く設定できたことによると考えられる。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	全国平均と比較して、平均正答率は国語と理科が高く、数学ではほぼ同等の結果であった。また問題形式別に見ると、いずれの教科も、「選択式」の問題は全国平均よりも平均正答率が高く、「短答式」では低かった。また、数学や理科で、2つの数量の関係性をとらえる問題について課題がみられた。これらの結果から、基本的な知識・技能が記憶には残っているが、ややあいまいで正確には定着していないと考えられる。	
思考・判断・表現	全国平均と比較して、平均正答率は国語、数学、理科ともに、同等からやや高い結果であった。また問題形式別に見ると、「選択式」「記述式」の問題でどの教科も全国平均よりも平均正答率が高かった。しかし「記述式」の問題では無解答率も高かった。これらの結果から、解答の見通しが立てば答えられるが、解答の見通しがもてない場合は「とりあえず書いてみる」などせず、間違った解答をすることに抵抗のある生徒が多いことが考えられる。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	2学年国語、1学年理科については市平均を上回り、1学年国語、社会、2学年数学、理科については市平均を下回った。2学年の偏差値の同一集団経年比較については、どの教科も昨年度を上回っている。課題解決に向けて自分から取り組んでいる生徒の割合は市平均より高いが、自分に合った学習時間になっていると感じている生徒の割合は市平均よりやや低い。これらのことから、昨年度よりも学習に対して意欲的になり、自分や集団の力で学習内容を理解し、課題を解決する姿勢が高まったことが結果につながってきたと考えられる。しかし、市平均を上回る教科がまだ少ないので、現在の取組を継続していくことが必要と考えられる。	
思考・判断・表現	1学年国語、理科については市平均をやや上回り、1学年社会、2学年理科については市平均を下回った。2学年の偏差値の同一集団経年比較については、国語、数学、社会で昨年度を上回っている。話し合う活動や考えを発表することを通して学びが深まっていると感じている生徒は市平均よりもやや少ないが、周りの意見を大切にし、協力して課題解決に取り組んでいる生徒の割合は市平均と同等であった。これらのことから、周りの意見から考えをインプットしようとしている生徒が多いものの、自分の考えを伝わりやすくまとめたり工夫したりしてアウトプットすることに課題があると考えられる。今後は、自分から表現する活動を通して、思考力・判断力・表現力を高めていく指導が必要と考えられる。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	定期テスト前1か月を目標に、「課題配信強化月間」を1学期に1回実施し、社会、数学、理科、G・Sで課題を配信した。また定期テスト前1週間、朝10分間の「学習週間」を実施した。	変更なし
思考・判断・表現	B	1学期の「学びの指標」アンケートにおいて、昨年度より「主体的」「探求的」はやや向上、「ICT」はほぼ同等であった。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をテーマに全校で研究を進め、知識・技能を活用する場면을意図的に授業に取り入れた。ICTの活用により、自分と他者の考えを共有したり比較したりする活動をより設定していくことが課題である。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)